

【熊本県高森町】校務DX計画

高森町は、第4次高森町新教育プラン（令和5年10月改定）の中で3つの軸を設定しており、そのうちのひとつとして「教育職員の働き方改革」を掲げ、校務のDX化を推進している。

また、令和5年度から2年間、文部科学省「リーディングDXスクール」の委託を受け、教育のDX化を図る中に校務DXも位置づけて研究実践を積み重ねている。

さらに令和6年度は、生成AIの校務利用による教職員の働き方改革に関する研究実践にも取り組んでいる。

主な校務DXの取組は下記のとおりである。

- ①児童生徒の欠席等の連絡について、汎用クラウドツール等を活用し、PC・モバイル端末等から随時受け付け、集計している。
- ②児童生徒及び保護者・教職員への各種調査について、汎用クラウドツール等を利用し、各種調査・アンケート等の作成・回収・集計をデジタル化している。
- ③児童生徒が1人1台端末を持ち帰り、家庭でも利用することの日常化により、児童生徒への各種連絡や宿題・家庭学習・課題の作成・採点のデジタル化を図っている。
- ④職員会議において、クラウド上で資料を配付・保存したり、意見を集約したりしてペーパーレス化を図っている。
- ⑤授業研究会や校内研修等の協議において、汎用クラウドツール等を活用し、研修効果の向上及び授業改善につなげている。
- ⑥生成AIの校務利用による作業の効率化を図っている。

令和7年度以降の校務DXの推進計画は下記のとおりである。

- ① 教育ダッシュボード※¹ 検討→教育のBI化※²（児童生徒・教職員）個別最適化
- ②児童生徒の心の健康観察の定着→学習eポータルアプリを活用して継続実施
- ③学校-家庭-地域をつなぐ連絡アプリを令和7年4月導入、6月運用開始し、これまで以上に効率的かつ教職員の働き方改革につながる運用をおこなう。
- ④校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃
- ⑤次世代の校務システムの導入に向け、令和8年度までに検討を進める。
- ⑥デジタルドリルの充実化→AIを活用し加速化
- ⑦FAX、押印の原則廃止によるペーパーレス化を進め、教職員の柔軟な働き方の推進につなげる。
- ⑧クラウドや生成AI等に対応した教育情報セキュリティポリシーの改定および、教職員の情報リテラシーの向上

※¹ 教育ダッシュボード：生徒たち一人一人の各種「教育データ」（学習状況・成績・出欠席等）を収集・可視化し分析を行う教員用システム

※² BI化：Business Intelligence（ビジネス・インテリジェンス）の略であり、膨大なデータを分析・可視化して業務に役立てること